

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年2月4日 (2016.2.4)

【公表番号】特表2013-540749(P2013-540749A)

【公表日】平成25年11月7日 (2013.11.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-061

【出願番号】特願2013-529373(P2013-529373)

【国際特許分類】

C 07 D 233/64 (2006.01)

A 61 P 43/00 (2006.01)

A 61 P 27/06 (2006.01)

A 61 P 9/10 (2006.01)

A 61 P 25/00 (2006.01)

A 61 P 27/02 (2006.01)

A 61 P 25/04 (2006.01)

A 61 P 25/06 (2006.01)

A 61 P 1/00 (2006.01)

A 61 P 21/00 (2006.01)

A 61 P 25/28 (2006.01)

A 61 P 25/30 (2006.01)

A 61 P 25/18 (2006.01)

A 61 P 25/22 (2006.01)

A 61 P 25/24 (2006.01)

A 61 P 3/04 (2006.01)

A 61 P 3/10 (2006.01)

A 61 P 1/12 (2006.01)

A 61 P 13/02 (2006.01)

A 61 P 11/02 (2006.01)

A 61 P 25/14 (2006.01)

A 61 P 37/02 (2006.01)

A 61 P 1/04 (2006.01)

A 61 P 25/16 (2006.01)

A 61 P 17/00 (2006.01)

A 61 P 17/10 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

A 61 P 29/00 (2006.01)

A 61 P 17/06 (2006.01)

A 61 P 17/18 (2006.01)

A 61 P 17/04 (2006.01)

A 61 K 31/4174 (2006.01)

【 F I 】

C 07 D 233/64 1 0 1

C 07 D 233/64 C S P

A 61 P 43/00 1 2 3

A 61 P 43/00 1 1 1

A 61 P 27/06

A 61 P 9/10

A 61 P 25/00

A 61 P 27/02

A 6 1 P 25/04
 A 6 1 P 25/06
 A 6 1 P 1/00
 A 6 1 P 21/00
 A 6 1 P 25/28
 A 6 1 P 25/30
 A 6 1 P 25/18
 A 6 1 P 25/22
 A 6 1 P 25/24
 A 6 1 P 3/04
 A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 1/12
 A 6 1 P 13/02
 A 6 1 P 11/02
 A 6 1 P 25/14
 A 6 1 P 37/02
 A 6 1 P 1/04
 A 6 1 P 25/16
 A 6 1 P 17/00
 A 6 1 P 17/10
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 17/06
 A 6 1 P 17/18
 A 6 1 P 17/04
 A 6 1 K 31/4174

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年12月1日(2015.12.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 7】

これらの新規の化合物は、ヒトを含む哺乳動物において、__ 2 A、2 B、2 C の活性化
 によって緩和される一定範囲の状態及び疾病治療と予防に有効であり、それらの状態及び
 疾病とは、緑内障、眼圧上昇、虚血性神経症、視神経症、痛み、内臓痛、角膜痛、頭痛、
 偏頭痛、癌痛、背痛、過敏性腸症候群痛、筋肉痛及び糖尿病性神経障害に伴う痛み、糖尿
 病性網膜症、その他の角膜変性状態、発作(stroke)、認知症、神経精神病的状態、薬物依
 存及び常習的使用、禁断症状、強迫性障害、肥満、インスリン抵抗性、ストレス関連状態
 、下痢、利尿、鼻づまり、痙攣、注意欠陥障害、精神異常、不安症、うつ病、自己免疫疾
 患、クローン病、胃炎、アルツハイマー症、パーキンソン病、ALS、その他の神経変性疾
 患、皮膚病的状態、皮膚紅斑及び炎症、ざ瘡、加齢性黄斑変性、湿性黄斑変性、乾性黄斑
 変性、地図状萎縮、糖尿病性黄斑浮腫、腫瘍、外傷治療、炎症及び網膜静脈閉塞症、緑内
 障、網膜色素変性症及び多発性硬化症に伴う二次性神経炎を含む症状に起因して視力が低
 下した患者の視力向上、酒さ（皮膚直下の血管の膨張）、日焼け、慢性陽光線障害、離散
 性紅斑、乾癬、ざ瘡酒さ、閉経に関連した顔面潮紅、睾丸切除に由来する顔面潮紅、アト
 ピー性皮膚炎、光老化、脂漏性皮膚炎、アレルギー性皮膚炎、皮膚の赤らみ、顔面の毛細
 血管拡張症（以前から存在する毛細血管部分の膨張）、酒さ鼻（小胞膨張による鼻の肥大

）、赤いだんご鼻、ざ瘡状皮疹（にじみ出たり固くなったりする）、顔面の灼熱感や刺激感、ひりひりする充血した涙目、皮膚の紅斑、皮膚血管の膨張を伴う皮膚の機能昂進、ライエル症候群、スティーブン・ジョンソン症候群、多形紅斑マイナー、多形紅斑メジャー、及びその他の炎症性皮膚疾患などである。